

第8章 環境保全

1) 環境汚染発生状況

(1) 環境汚染の種類別発生件数

平成16年度の畜産環境汚染の発生は、19件と前年に比べ2件減少した。原因別では「悪臭発生」が最も多く、発生件数全体の53%を占める。

(単位：件)

	2年度	6年度	12年度	14年度	15年度	16年度
悪臭発生	43	52	14	8	14	10
水質汚濁	25	19	1	2	4	5
水質・悪臭	11	8	2	5	3	3
悪臭・害虫	16	6	2	1	0	1
害虫発生	21	19	0	0	0	0
その他(流出)	5	7	0	1	0	0
計	121	111	19	17	21	19

調査期間は各年度の7月1日～翌年6月30日

資料：県畜産課調査

(2) 畜種別発生件数

畜種別に見ると豚が11件と最も多く、次いで鶏が6件となっている。

畜種別合計

(単位：件)

	2年度	6年度	12年度	14年度	15年度	16年度
豚	65	50	9	10	9	11
乳用牛	30	25	0	1	2	0
肉用牛	4	5	1	0	0	2
採卵鶏	21	23	9	5	10	6
ブロイラー	1	1	0	0	0	0
その他(馬)	0	7	0	1	0	0
計	121	111	19	17	21	19

調査期間は各年度の7月1日～翌年6月30日

飼養規模別件数(畜種別合計の平成16年度内訳)

		悪臭発生	水質汚濁	水質・汚臭	悪臭・害虫
豚	1～49頭				
	50～499頭	1		2	
	500～999頭		1	1	
	1,000頭以上	2	3		1
肉用牛	1～19頭				
	20～29頭				
	30～49頭				
	50～99頭				
	100頭以上	1	1		
採卵鶏	1～4,999羽	1			
	5,000～9,999羽				
	10,000羽以上	5			
計	10	5	3	1	

資料：県畜産課調査

2) 資源循環（家畜ふん尿処理・利用）への県の取組

～大規模堆肥センターによる高品質堆肥生産～

(1) 有機資源センター新郷

円形スクープ式強制発酵機による堆肥生産を行います。



(2) 東北町有機供給センター

自走式強制攪拌機による堆肥生産を行います。



自走式攪拌機

2次処理

